

情報処理(10)

4. WWWと電子メール

佐藤尚毅

内容

1. WWW
2. 電子メール

1 WWW

1. WWWとは
2. WWWの仕組み
3. 文字コード
4. 利用上の注意

1 WWW

1. WWWとは

- WWW (World Wide Web): インターネット上で ハイパーテキストを使って情報を提供するシステム。
- Webページ
 - ハイパーテキスト記述言語 (HTMLやXHTML)。
 - ハイパーリンク: 他の文書へのリンク。

1 WWW

2. WWWの仕組み

- Webサーバ: WWWによる情報送信を行うソフトウェア/コンピュータ。
- Webブラウザ: Webページを閲覧するためのアプリケーションソフト。
- URL (Uniform Resource Locator): インターネット上での資源の場所を示す記述方式。
 - プロトコル名://サーバ名.ドメイン名/ファイル名
 - 例: <http://www.u-gakugei.ac.jp/intra/index.html>
 - DNS (Domain name server): URLをIPアドレスと対応させる。

1 WWW

3. 文字コード

- 文字コードを使って、ひとつの文字にひとつの整数を対応させる。
- ASCII
 - アルファベット、数字、特殊記号などの文字コード。
 - 1文字=1バイト。
- 日本語の文字コード
 - (いわゆる)JIS、日本語EUC、シフトJIS、Unicode。
 - 1文字=2バイトまたは3バイト。

1 WWW

3. 文字コード

- 文字コードを使って、ひとつの文字にひとつの整数を対応させる。
- ASCII
 - アルファベット、数字、特殊記号などの文字コード。
 - 1文字=1バイト。
- 日本語の文字コード
 - (いわゆる)JIS、日本語EUC、シフトJIS、Unicode。
 - 1文字=2バイトまたは3バイト。

1 WWW

4. 利用上の注意

- 情報の信ぴょう性。
- 情報の過多と埋没。
- フィルタリング (悪質情報の制限と情報操作)。
- フィッシング詐欺: 信頼できるサイトをかたってIDやパスワードなどを入力させて盗む。
- ワンクリック詐欺: クリックしただけで料金が発生。
- 類似URLの悪用。

2 電子メール

1. メールアドレス
2. 送受信の仕組み
3. いろいろなサービス
4. ルールとマナー
5. セキュリティ

2 電子メール

1. メールアドレス

- ローカル部@ドメイン名 (=u-gakugei.ac.jp)

2. 送受信の仕組み

- メールサーバ (SMTPサーバ、POPサーバ)
- メールクライアントソフトウェア (メールソフト)
(例: Outlook)
- DNSサーバ。

2 電子メール

3. いろいろなサービス

- Webメール: ウェブブラウザを通して利用するメールソフト。
- メーリングリスト: 複数の人に同時にメールが配信される仕組み。

2 電子メール

4. ルールとマナー

- あて名と差出人を本文中にも書く。
- 適切に改行を入れる。
- HTML形式はできるだけ避ける。
- 添付ファイルの種類や大きさに注意する。

2 電子メール

4. ルールとマナー

- 他人のメールアドレスの取り扱い: むやみにCCに含めない。
- 他人から受け取ったメールの取り扱い: 無断で転送しない。
- チェーンメールに参加しない。
- すぐに届く、すぐに読まれると思わない。

2 電子メール

5. セキュリティ

- 通常の電子メールは暗号化されていない。
- 盗聴や詐称、改ざん。
- 対策: 暗号化、電子署名。

電子メールの書き方

1. Webメールにログイン

- 学芸大のWebページ→学内ネットワーク
→Web System→Webメールシステム

電子メールの書き方

2. ヘッダの作成

- 送信者名を確認。
- メール作成をクリック。
- 送信者名を確認。
- 宛先を記入。
- 必要に応じてCCとBCCを記入。
 - CC: 受信者に見える、bcc: 受信者に見えない。
- 必要に応じてReply-Toを記入。
- 件名を記入。

※以上はできるだけ英語が望ましい。

電子メールの書き方

3. 本文の作成

- 最初に、宛先を書く。
- 適宜改行する。
- 最後に、最低限、送信者名(英語を含む)、送信者のメールアドレスを書く。

4. 添付ファイルの添付

- 必要最小限に。
- 相手も読めるファイルか確認。
- サイズを確認。
 - 数十KB程度以下が望ましく、普通は数百KBが限界。
- ファイル名は英語が望ましい。